

定員変更に至る各施設の経緯

①しおん保育園（アルカサル分園）の事業譲渡

千葉ニュータウン駅近隣でマンションが竣工し、同駅圏における受け皿の確保が必要となっている。駅前のアルカサルのテナントで学校法人西村学園が運営していたしおん保育園（分園）が廃止するため、令和8年4月の入所申込の状況を踏まえ、社会福祉法人すくすくどろんこの会が同テナントにおいて小規模保育事業（A型）を整備し、受け皿を確保するもの。

同駅圏では、この他、送迎保育ステーションの整備、銀の鈴保育園の増築による定員増、リップル保育園 CNT 高花Ⅲの新設、Rainbow Wings International の定員調整により受け皿を確保する。

②（仮称）リップル保育園 CNT 高花Ⅲの新設

改修工事費の大幅な高騰等により、リップル保育園 CNT 高花Ⅰの認可保育所への移行を延期したため、令和8年4月以降の3～5歳児の受け入れ先として、小規模保育事業（A型）を整備するもの。

③どんぐり保育園の定員変更

在園児保護者の就労状況の変化に伴い、2号認定から1号認定に切り替えて引き続き施設を利用するニーズがあるため、4・5歳児における1号認定の定員を引き上げるもの。

④⑤認定こども園 Rainbow Wings International（本園・分園）の定員変更

近年、育休延長の増加等に伴い0歳児の受入れが低迷し、1・2歳児の保育ニーズが高止まりしている。当園（分園）は特にその傾向が顕著であるため、0歳児の定員を廃止し、本園と分園で1・2歳児の定員を引き上げるもの。また、0歳児で生じた空きスペースを活用し、乳児等通園支援事業を行う。

定員の引き下げと同時に、ニーズが高い1・2歳児の定員を引き上げ、乳児等通園支援事業を整備しており、施設の効用は維持・向上していると考ええる。

定員引き下げについては、直近2年度の各初日（4月1日）時点において0歳児の在籍数が定員を下回ることで、0歳児の定員廃止（9人→0人）により直近の申込者の処遇に影響がないこと（令和8年4月の0歳児申込者は0人）から、保育の運営に支障はないと考える。

⑥そうほスマイル保育園の定員変更

必要な基準内において、利用定員を超えて園児を受け入れることは施設型給付費においてより高単価が適用され、経営の安定化ひいては保育の質の向上に資することが期待される。しかしながら、当園は直近2年度の平均在所率が120%を超え、施

【資料1】

設型給付費において、令和8年4月より定員を恒常的に超過する場合の減算措置に該当し、施設型給付費への影響が大きい。そのため、受入れの拡大には寄与しないが、経営の安定化と保育の質の向上を図るため、定員設定を見直すもの。（なお、変更後の4月1日時点で、引き続き120%を超えない範囲での弾力運用を認める）

⑦印西ひかりこども園の定員変更

当園は平成29年度（2017年）に公立の大森幼稚園、大森保育園、木下保育園を統合する際に誘致して開所した。当園が立地する木下駅周辺エリアは、開所当時と比べて保育ニーズが低下し、施設全体で定員割れが恒常化している。経営の安定化と保育の質の向上を図るため、定員設定を見直すもの。

直近2年度の各初日（4月1日）時点の施設における在所率が100%を下回ること、定員引き下げにより直近の申込者の処遇に影響がないこと（令和8年4月の在園者141人に対し、定員213人→151人）から、保育の運営に支障はないと考える。

⑧しおん保育園（本園）の定員変更

本園は平成21年度（2009年）の開所時、総定員60名（3～5歳児34名）で設定したが、平成23年度の牧の原駅前分園の整備、平成27年度の千葉ニュータウン中央駅前分園の整備に伴い、総定員107名（3～5歳児80名）まで拡大させた。一方、職員不足により両分園は令和2年度末、令和7年度末にそれぞれ廃止し、両分園から本園に移籍する園児が減少したことから、本園の3～5歳児定員を引き下げ、送迎保育ステーションを使った利用が見込まれる2歳児の定員を引き上げるもの。

以上